

特集：卒業

生命環境学群学生表彰を受賞して

戸祭 森彦（筑波大学 生物学類 4 年）

日本中のアーティストが「人は一人では生きられない」と歌っているが、私の大学生活はまさにこの言葉に尽きる4年間であった。

1年生のとき初めて研究室に見学に行くのが恥ずかしく、仲良くなった友人についてきてもらったのが研究生生活の始まりであった。3年生まで先生、先輩のご指導のもと虫と親身に付き合った。研究もまとまってきた矢先に海洋の美しさに魅せられ、卒業研究を静岡県下田市という遠い地で行う事を決めた。このときもある同輩の「俺も下田に行こうと思ってるんだ」という一言が決め手であった。卒業研究は下田臨海実験センターの教員、技術職員の方々に助けていただきながら仕上げた。新しい実験装置を作るために実験内容を精査して相談したはずが、抜けを指摘されて笑われるのが日常であった。卒研発表練習の際には沢山の先生にご意見を頂き、幾度と無く修正されたスライドは第何稿になったのかわからない。

授業では1限に間に合わず、友人に起こしてくれと頼めば朝何度携帯を鳴らしてもでないから死んでるんじゃないかと家のチャイムを連打され、テストの前には友人宅に泊まり込んで勉強したあげく単位を落としていた。全く出来の悪い学生である。目も当てられない。忘れよう。

もし一人で授業や研究をしようとしていたら、今頃実家の布団にくるまって泣いているだろう。幸運だったのは、私の周りの

友人たちが私を笑顔で助けてくれる素晴らしい人たちだったという事である。彼らの協力無くして大学でのこのような成功は無かったといえよう。なによりも新入生の頃から現在でも私を支えてくれている彼女には感謝してもしきれない。

とはいえ誰より感謝しなければいけないのは、私を大学へ、そして大学院へ通わせてくれる両親だろう。月並みだが、大切な事だと思う。そういえば両親、特に母には中学のときからギリギリの成績で、生活面でもだらしなく適当なのでいつも心配ばかりかけていた。今でもそれは全く変わっていないが、今回賞を頂き、多少なりとも恩返しができただろうか。

沢山の人の、時には見守って頂き、時には厳しいご指導を賜りながらやっとの思いで卒業した私が、なぜ生命環境学群学生表彰を頂けたのか。私自身が一番驚いている所だ。ただ、表彰を受けた事が私一人の力ではなく、私を導いてくださった両親、先生、先輩、同輩、後輩など沢山の人のおかげである事は間違いない。私はなかなかお礼を言う事ができない性分なので、この場を借りて私に関わってくれた方々に深くお礼申し上げる。

最後まで私事に終始してしまったが、学生の皆さんが授業などで悩んだ時、詰まった時、周りの誰かに相談する、あるいはなにか解決の糸口のきっかけとなれば幸いである。

Communicated by Takeo Hama, Received April 15, 2014.